

秋の企画展

復刻版画

名作・保永堂版 東海道五拾三次

入館
無料

'09
9/7^月 ~ 11/19^木

●開館時間：平日9:00~16:00（入館は15:30まで）
●休館日：土・日・祝日（銀行窓口休業日）

住所＜赤塚交差点南西すぐ 国道19号線沿い＞
〒461-0026 名古屋市中区赤塚町25番地
TEL.(052) 933-5151

<http://www.bk.mufg.jp>



交通

【名古屋駅より市バス】

- 名古屋バスターミナル7番のりば
基幹2光ヶ丘・猪高車庫行「赤塚白壁」停下車
- 名古屋バスターミナル5番のりば
幹名駅1白壁經由大曾根行「赤塚」停下車

【栄より市バス】（オアシス21より）

- 栄バスターミナル3番のりば
基幹2引山・四軒家行「赤塚白壁」停下車
- 栄バスターミナル4番のりば
栄14上飯田行「赤塚」停下車
- 栄バスターミナル5番のりば
栄12安井町西行「赤塚」停下車

【大曾根より市バス】

- 大曾根バスターミナル2番のりば
幹名駅1白壁經由名古屋駅行「赤塚」停下車

駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください。

企画展の詳細は裏面をご覧ください。▶



三菱東京UFJ銀行 貨幣資料館
Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Money Museum



名作・保永堂版 東海道五拾三次

期間 2009年9月7日(月)～11月19日(木)



保永堂版全点と異版の数々

今回の企画展は、名作「保永堂版東海道五拾三次」全揃55枚と、初版・後版による作品の違いを抜粋比較してお楽しみいただけます。



日本橋
(初版)



日本橋
(後版)

これには絵師・広重の意図だけでなく、作品完成後の量産に適した摺り工程の簡素化や省略、版木の摩耗による補正・改良などの様々なテクニクが加えられており、版元・保永堂による出版上の諸事情があつたものと考えられます。また、版画製作の基本となる版木・主板(墨で描く輪郭線の版木、墨板ともいう)を作り直して出版した「変わり図」と呼ばれる作品も存在しています。このようなバリエーションがこれほど顕著な浮世絵版画は、この広重の「保永堂版東海道五十三次」においては他に類例がありません。これらのことから、当時いかに広重が描くこのシリーズが好評を得ていたかがうかがい知れます。

◆ 出版後に加えられた さまざまな変化

名作「保永堂版東海道五十三次」は出版後ベストセラーとなったために、当時の浮世絵版画としてはかなりの数が摺られたようで、現存する作品には色合い・構図などに様々な変化が見られます。

◆ 保永堂版 東海道五拾三次
いうまでもなく広重の代表作、風景版画の頂点に立つ作品のひとつです。天保4年(1833)の作と考えられており、53の宿場に始点(日本橋)と終点(京都)を加えた全55枚。天保3年の幕府の一行に随伴しての旅行の体験をもとに作画にあたつたと言われています。
本シリーズの最大の特徴は、旅路の風光・風物の趣を叙情味に包み臨場感豊かに描写してあますところがない点でしょう。とりわけ四季の情感や、風雨霧雪などの自然現象を時刻の変化まで取り合わせて各宿場に巧みに配した造形感覚は高く評価されています。
見る人は、画中人物に感情を移入すれば、こよなき旅行体験となり、旅の途中での土地土地のさりげない出来事や自然・風物との出会い、さらに土地の人々との出会いを描き尽くしていることに気付かれるでしょう。



箱根



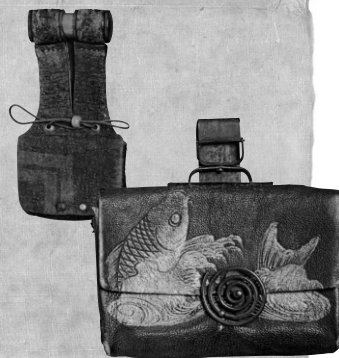
庄野

～江戸時代の旅の道具～

家康による江戸開府により、東海道は五街道のうち最も重要な街道として整備されました。初期には軍用道路であつた街道も、幕藩体制が安定するにつれ、人々や物資の往来が盛んになり、経済的・文化的な重要性が増し、江戸と上方を繋ぐ主要幹線として発達してゆきました。

今年2009年は、有名な十返舎一九『東海道中膝栗毛』の全8編刊行(1809年[文化6年]に8編目が刊行)からちょうど200年という年でもあります。

当時の道中に使われた旅の道具類を展示します。



『東海道中膝栗毛』
発刊200周年



| 次回予告 | 期間 2009年11月24日(火)～2010年2月4日(木) 花鳥版画展

三菱東京UFJ銀行 貨幣資料館